

4. 南区主催事業

(1) 校区青少年育成団体委員研修会

校区において、青少年の健全育成・非行防止活動を実践されている校区青少年育成団体の委員を対象として、研修会を実施しました。本年度は、スクールソーシャルワーカーの役割と地域との関わりについて知り、子どもとの関わり方を学ぶことを目的として開催しました。

日時	平成28年7月15日（金） 19:00～21:00
会場	南区保健福祉センター 講堂
内容	講話 テーマ『スクールソーシャルワーカーの仕事 ～地域で育む子ども達の大切な未来～』
講師	講師： 奥村 賢一 氏 〔 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授 〕 〔 福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長 〕
参加者	校区青少年育成団体の委員 46名

◆講話 奥村氏

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの違いについて

スクールカウンセラーは、カウンセリング等の心理相談を専門としています。一方でスクールソーシャルワーカーは、福祉相談など問題を抱えている人の周辺環境を整えることを専門としています。

スクールソーシャルワーカーの仕事について

スクールソーシャルワーカーは、家庭・学校・地域をつなぎ、子どもたちの生活支援を行う役割を担っています。主な仕事として「調整」「連係」「協働」「相談」の4つがあります。制度・サービスを適切に利用できるように、有益な情報の提供をし、家族や友人、先生方と協力しながら子どもの悩みをしっかりと聞き、問題の解決に役立つ専門機関を紹介したりします。また、いろいろな専門機関から支援を受けているときに、個々の専門機関の指針の違いなどで、支援を受けている子どもやその家族が混乱してしまうのを防ぐために、専門機関同士の調整も行っています。



支援について

困っている人の支援を行うには、多角的な視点で相手に向き合う工夫が必要です。まずは、自分のなかにある偏見と向き合うことが大切です。いじめは学校の問題、虐待は児童相談所の役割、生活は家庭に責任があるというような偏見を持っていては、問題を解決することはできません。問題の原因はひとつではなく、いろいろな要因が重なり合っているからです。子ども、家族などの話をよく聞くことで、複雑な問題が明らかになることがあります。

「困った子」は「困っている子」です。「相手は自分とは違うから」「相手の考えがずれているのだ」といった相手への思いこみをなくさなくてはなりません。

また、「あなたの気持ちわかるよ」という上から目線の言葉では、相手と寄り添いたい気持ちが伝わりません。寄り添ってくれる人がほしいと思っている子どもに対し「あなたの気持ちをわかりたい」と「受容」「傾聴」「共感」の姿勢で相手の話を聞き、相手の話をよく聞くことが問題の解決につながります。

◆参加者の感想

- ・最近「困った子」に振り回され、大変でした。視点を変えてみることを実践していきたいと思います。
- ・スクールソーシャルワーカーの活動は初めて知りました。その子だけではなく、周りの環境も考えて対応してくれる人がいることを、たくさんの方が知ることができるとよいなと思いました。
- ・「あなたの気持ちわかるよ」ではなく「あなたの気持ちをわかりたい」。目からウロコでした。子どもたちへの声かけの参考にさせていただきます。
- ・まず、自分の考え方から変えていこうと思います。地域の温かい目で見守っていただけると思います。
- ・「よかれと思ってしていることが相手を追い詰めることがある」ということには気をつけなければならないと思いました。寄り添い方が難しいです。でも、あきらめずに見守っていきます。

(2) 強調月間

本市では、7月を「福岡市青少年の非行・被害防止強調月間」、11月を「福岡市子ども・若者育成支援強調月間」と定め、国の運動と一体となって、より多くの市民の方が、青少年の非行防止、子ども・若者の育成支援に関心・理解を深めていただくよう、取り組みを推進しています。